



表紙の写真

「藤村記念館」

甲府市古府中町の武田神社境内にある、甲府市郷土資料館である。山梨県名藤村菊朗が当時勧奨した洋風建築物で、明治6年(1873)から15年間に県内各所にこの様式建築物が200棟余り建てられた。現存するのは4棟だけで、この建て物はそのひとつである。明治8年(1875)陸沢村(現敷島町)亀沢に陸沢学校校舎として建てられ、昭和41年(1966)現在地に移築復元された。甲府市の民俗、歴史、教育や藤村菊朗関係の資料を展示している。建物はペランダの円柱やアーチ形窓飾りなど外観意匠や構造に明治初期の洋風手法を感じられる。押し寄せる文明開化の香りと近代教育への意氣込みが伝わってきそうである。昭和42年(1967)に重要文化財に指定されている。

(写真と文:浅川 純)

「MUH」vol.13 1997.7.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・横田雅幸・久保田充一
編集／株式会社ニュースメディア甲府三井弘・三井君男／山川エミ・高山ひとみ／
原田陽子／新海毅・新谷敏之

印刷／電算印刷株式会社

誌名の「MUH」は、早野組の社説である「和」を託した
Male(仲間) Union(結束) Harmony(調和) の頭文字から
とりました。幻のムード隊のロマンを目指します。

フォーラム	
テーマ 茶の間	江宮隆之・吉屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美
特集	
山梨21 向山 明生	さん(ステンドグラス作家) 4
ホスト 早野 潤	
教会の窓を飾った技工 いまは暮らしのなかに	
こぼれ出る光の絶妙さ 300種、5000色	
ヨーロッパと日本の融合 四季のこころを表現したい	
トピックス	
日本版ビッグバン	10
企業ウォッチング	
株式会社岩野 岩野秀夫氏	13
サークル訪問	
なでしこの会	14
インフォメーション	
トヨタビースタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運・早野組	16
ようこそ歴史	
有馬 晴信	18 上野晴朗
アートへのまなざし	
ボクの美術品観察日記6	20 山本育夫
トレンド	
今どきのゲーム事情	22
BOOK	こんなところに山梨… BOOKコーナー 「道祖神様さま」
海を見るハイキング	
殿入川 白糸ノ滝	24 上野 嶽
甲府通運前史を訪ねる(7)	25 林陽一郎
ユーザー訪問	
三和防災株式会社	26
お家探見	
小野 浩一さん	27
リレーエッセイ	
1960年代の街角風景	28 米山哲雄
ときのひと・FACE	
トヨタビースタ山梨(株)車両部長 保坂 行美さん	29
おしゃれ	
エステツインプラザ甲府本店	30 たべる 焼肉ぼくり北口店
お茶の間の民俗学(4)	
一年中行事の習俗とその心—	31 志摩 阿木夫
コラム	
某月某日	32

そこで交わされる言葉

江宮隆之

「茶の間」をテーマに何かを書くのは難しい。そうだ、茶の間から連想するものを書くしかないと思い立ったのは、結婚をすぎて数日してからである。昔の日本では、茶の間が居間を兼ね、さらには応接を兼ね、食堂を兼ね、おかみさんの内職などの仕事場まで兼ねた。そこで話される言葉について考えてみた。

というのは、現在取り組んでいるテーマが明治時代であるためで、そこでは母娘三人が内職などで糊口をしのいでいる。姉娘は一家を食べさせるために「女だてらに」小説家になろうと考えている。だが、二十歳そこそくで伝手はない。妹娘がそんな姉のために、大して有名ではないが小説家を紹介する。やがて姉娘の小説は評判を呼んで明治の文豪文学者として最高峰に輝くが、僅か24歳で夭折する。

さて、気になるのが彼女たちの使っていた言葉である。たかが百数十年前の言葉だというのに、よく分からぬ。現在と違っていたことも確かである。例えば今は普通に使われている「です」だが、これは江戸時代には「…です」というのと同様に軽薄な言葉であった。少なくとも中流以上の家庭では使われることはなかつた。当然、明治の初期にも同じであったはずだ。これは、明治になって増加し始めた外国语を訳して漢語にした場合に「漢語」プラス「です」という使い方がとても便利であったからだ、と解説する人がいる。「です」の流行に伴つて「ます」も多く使われるようになってきた。これは多分、自由民権運動が演説を伴つたことから大勢を相手にした場合の話し方に、便利ということであったのではないか。

明治の東京では江戸時代と同様に「山の手言葉」と「下町言葉」があった。三人の母娘は甲州出身とはいへ「土族」。当然山の手言葉で暮らしていた。が、突然「よくってよ」「いいことよ」などという言葉を使いだす。これが明治期に上流家庭でも急速に広まり、今につながってくる。ああ、枚数がない。この続きを、またということで。

■1948年山梨県生まれ 第13回歴史文学賞 第8回中村星湖賞受賞 「白猫の人」(河出書房新社)が5月文庫本化 7月に「小西行長」(竹書房)刊行予定

復活なるか、「茶の間」

古屋久昭

そういうば、もう10年も、いや20年も、「茶の間」などと、口にしたことはない。なつかしいことばであり、ひょっとして私の中ではもう死語に近かつたかも知れない。

「茶の間」といえば、一般に和風の家が相場である。住宅のボロ家でも、一応、和風の体裁を探っているが(ともいえないなあ)、風格など、からつきしないものだから、物置小屋が化粧直しをしたような、それはそれは貧相農かなハンチクリンな家なのである。

そんなわが家に、「茶の間はあるのかい」と問われれば、「ありますよ」と切り返すくらいのことは承知しているつもりだが、自信のほどはない。

私の家には、現在老夫婦がいて、一つ屋根に住んではいるが、われわれの部屋とは一線を画している。あえていえば、老夫婦がわだんいつまいところが「茶の間」といえるものである。

では我々のところはどうか、これも「茶の間」といっても間違いではなさそうだが、いまひとつピンとこない。

どうして、胸を張つて「茶の間」と元気よくいえないのだろう。「茶の間」といえばイコール「団欒」、といふイメージを浮かべてしまふからかもしれない。

そう、「団欒」なのだ。その「団欒」の光景が、今はもうなくなつてしまつてゐるのだ。炬燵に当たつて密柑をかじり、お茶でも飲みながら「あれがねえ、これがねえ」などと、家族みんなで喋りあって晩を過ごす、といったこともなく、老夫婦は老夫婦の部屋で、我々は我々の部屋で、テレビの虚像にすがりついている。これでは「団欒」が生まれるわけがない。

「団欒」がそこになければ、「茶の間」といういふ方にもためらいが出ても仕方あるまい。かつて戦時中、わが家には四家族18人が同居していたといふ。都会にいた親族が田舎に疎間に來ていたのだ。そのときのお袋の大変さはいまだ知らないが、しかし、戦争をよそに、わが家はさぞ賑やかであつたことだろう。なにせ「四家団欒」なのだから。「狭いながらも楽しい茶の間」と、替え歌の一つぐらいすぐにも出そつてある。文字通り「お茶」の間をねつて手が伸び、会話が弾んだにちがいない。

おしゃべり娘が就職が決まって帰ってきた。さて、わが家の「茶の間」、復活なるか。

■1943年街坂町生まれ 日本現代詩人会員 日本現代詩歌文学館評議員 詩集に「料理考」「椅子の頬」「落日探集」 童謡集に「虫らしく花らしく」 そのほかエッセイ集「日々のおこぼれ言葉の微熱」等

ある夜の茶の間で

岩崎正吾

その夜、帰宅したわたしは、茶の間の入口で棒立ちになった。ちゃぶ台の側に、見知らぬ女が死んでいたからである。しかも、女は全裸であった。

いや、もう少し正確にいうと、こういうことになる。茶の間をのぞいて、わたしはいつものように古女房がうたたねをしているのだと思った。しかし横顔は、わが妻よりもずっと若く美しい。と、いうことは間違えて他人の家に入り込んだのか…。だが、茶の間の壁には、見なれた日めくりがかかる。横町の酒屋がくれたものだ。めくれば毎日、もっともな格言があらわれる。柱時計はいつものリズムで時を刻んでいる。結婚祝いに友人からもらったものだ。日めくり、時計は偶然の一一致ということもあるが、壁の染みだけは間違えようもない。台風の時の雨の染み跡で、わが家のユーラシア大陸みたいな模様である。

自分の家だと確認し、横たわった女が誰だろうかと近づき、心臓が口から飛び出しそうな衝撃を受けた。何と女は裸である。肉色の服だと思ったのは、女の皮膚の色だった。それだけでも腰が抜けるほどの出来事だが、どうも女は呼吸をしているようには思えない。すると茶の間に転がる女の全裸死体。何たることだと思うが、ここまで奇怪なことが重なると、実は現実性が乏しくなる。

わたしは腰を下ろし、横たわる女をのぞきこんだ。目の前に剥き出しの胸がある。女房の三倍はありそうで、よく実っている。皮膚がつやつやと輝き、乳首は桜色をしている。わたしは思わず手を伸ばし、女の乳首を指でつづいてみた。確かに生きた女のものではない。硬直していて、氷のように冷たい。まさしく、こいつはマネキンだと納得したとたん、背後で喧騒が起こる。

「ワーン、やつたあ、お父さん、引っ掛けた」と、隣の部屋から妻と二人の娘が現れた。すっかり酔いが醒めてしまった。「でも、お父さん、エッチ。死体のおっぱいに触ったわ」

ここまで書き、わたしはこの小説を捨てるにした。内容もくだらないが、そもそも現代に茶の間は失われているからである。

■1944年甲府市生まれ 小説家・長編歴史ミステリー「異説本能寺・信長死すべし」が講談社文庫として再刊 新しい信玄を描いた長編歴史エッセイ「武田信玄はどこから来たか—武田駿馬隊の謎を追う」(山梨ふるさと文庫刊)が話題を呼ぶ



高尾の駅で

佐藤真佐美

母が死んだ時の記憶はこうであった。11月の末の知床。開拓小屋の板敷きの10畳間。部屋の玄関寄りに調理室があり、瓢箪型の薪ストーブが置かれている。ストーブの上には湯たんぽ代わりの河原石が2個。煙突のそばに熊の骨が干してある。数日前に近所に熊が出て、隣家の主人が撃ち殺したものだ。壁に天狗印の富山の薬袋が描かれていた。こちらは高いからめったに開けず、頭が痛くても腹を下しても熊の骨を服まされた。天井に石油ランプ。さらにその上には、味噌を造るための大豆の团子が。天井狹しとぶらさげてある。窓の隙間や壁一面貼られた新聞紙がはがれ、風が吹く度にブーー鳴った。これが我が家家の茶の間である。

室内はけつぶつとしていた。煙突がつまっているのだ。祖母がトウキビの殻で草履を編んでいる。4歳半のぼくと2歳下の妹はストーブにかじりついていた。父は不在で母は台所にいた。風が強かった。床板の隙間はもちろん、いたるところから風が吹き込む。寒かった。薬袋の天狗が、ギロリギロリと睨んでいる。小便をしたかったが、天狗が出てきそうで便所に行けない。

「石くるんでもう寝れや」と祖母がぼくにあごをしゃくった。ストーブの上の石につばをかけ、ジュット音がすればぼろ布をかぶせ、布が焦げぬ間に素早く下ろし、紐でくるんで布団まで運ぶ。幼いぼくには、やや手に余る作業であった。足の上に石を落として泣き声を上げ、布の端に火がついて妹がわめいた。驚いてぼくは小便をもらした。母に尻をたたかれたような気がする。記憶は一転する。そのままだったか。茶の間に続く北側の部屋に母が伏せている。口から白い泡を出していた。

「父さんは呼ばってこい！ 小坂さんいる」と祖母が声を荒げた。そこまでは三百メートルほどあった。雪が降っていた。懐中電灯などむろんない。真っ暗闇のなかをぼくは泣きながら小坂家へ向かった。熊はその家の主人が殺したものである。高尾の駅で天狗の顔を見るたびに、茶の間の光景を思い出す。母の顔だけは記憶にない。以来ぼくは、7人の女性を母と呼んだ。

■1939年北海道生まれ 日本児童文学学者協会・日本児童学協会会員 著書に「怪奇！ 大東京妖怪ゾーン」(ポプラ社)「文ちゃんのはるかな知床」(北海道新聞社)近著に「シレットフのシルバー」(草薙社)など

光と色彩の神秘
ステンドグラスに魅せられて
暮らしを彩る環境芸術

ゲスト
むこうやま あけみ
向山 明生さん
ステンドグラス作家

ホスト
はやの きよし
早野 潔
早野組社長

教会の窓を飾った技工
いまは暮らしのなかに

早野 美術工芸のなかでも、その美しさ、素晴らしさに憧れながらも、いまだ遠い存在にあるというのがステンドグラスだといってよいでしょうか。

向山 歴史は古く、古代ローマ

時代にまでさかのほることができます、ヨーロッパはさておき、日本では、まだまだ馴染みのない分野ですね。

早野 先生がステンドグラスをはじめられた頃は、山梨には学ぶところがなく、東京に通って修業したと伺っています。そして現在は県下に

7ヶ所の教室をもたれ、指導的立場

でいらっしゃる。賞もおとりになっていますね。

そのことが、先生の先駆者としてのご苦労を想像させてくれますし、山梨におけるステンドグラスの普及の現状というものを伝えてくれています。

しかし、近年、注目されはじめていますよね。もっともっと知りたいという機運もあります。

向山 本格的にステンドグラスの世界に入りましたのは、20年ほど前のことです。それまでは、その魅力に惹かれてはいましたが、いわゆるファンとしてでした。契機になりましたのは、住まいを新築したときのことです。

住まいに、どうしてもステンドグラスを採用したいと計画しましてね、大工さんに相談しました。ところが「山梨では製作をする人がいないし、施工の経験もない」という理由から、いつも簡単に退けられてしまいました。

それなら、自分の夢は、自分で実現するしかありません。決心をして、それから東京へ勉強に通う生活がはじまりました。



早野 潔

■向山明生

甲府市生まれ。1989年世界デザイン博覧会ステンドグラス部門入選 第24回白河会美術展「山梨新根賞」受賞 第25回白河会美術展「最優秀賞」受賞 ガラス工房「アキ」主宰 山梨文化学園講師 日本ステンドグラス普及協会会員 白河会会員

こぼれ出る光の絶妙さ
300種、5000色

早野 それほどに先生の心を動かしたステンドグラスの魅力とは何でしょう。

向山 一見、冷たくて割れやすいという印象のガラスですが、一度光を受けますと、命を吹き込まれたように輝きはじめます。朝の光に、日暮れの光にと、光の度合いにともなって、美しく変化していきます。

早野 今日は、先生の御作「あじさい」と名付けられたランプをご持参いただきました。

色とりが多彩で、あじさいの咲き色の変化がじつによく表現されていますね。まさに花の盛りの情感にあふれています。

向山 ガラスとひとえに申しましても、色の抜けるもの、抜けないもの、さらには焼き付けのものと、タイプも幾通りもあり、300種5000色といわれています。

早野 この御作は立体ですが、立体といつても通常連想する球形や四角形とは異なる技法で、手の込んだものですね。

向山 花びら一枚一枚を作り、

こんどはその花を立体的に組み込んでいきます。

早野 あじさい特有の花の色の移ろいが見事ですね。

向山 灯りを点けてみましょうか。

早野 はい。

向山 さあ、いかがでしょう。

早野 いやあ、これはまた、印象が新たです。思わず拍手が出ますね。

向山 この光を通した彩りこそが「ステンドグラスの命」なんです。

ヨーロッパと日本の融合
四季のこころを表現したい

早野 ステンドグラスは芸術の形式のなかでも、ガラスと光との関係によって表現されるという点でユニークですね。「光による絵画」という言い方もできますね。



向山明生さん

向山 ステンドグラスといえば、まずどなたもヨーロッパの教会の窓や、貴族たちの装飾品を思い浮かべられることでしょうね。ヨーロッパにおいてはステンドグラスの歴史はたいへん古く、その伝統を知る新旧の作品も残され、まるで町全体が、ステンドグラスの美術館のような所もあります。

ステンドグラスが都市の価値や誇りの基準だったのでしょうね。技術も洗練され、芸術にまで高められてきました。遠い時代の作品が今日まで保存されているのも、ステンドグラスを尊び、大切にしていたからです。戦争がはじまるとき、職工たちはまず、教会のステンドグラスを外したといいますからね。



早野 日本に入ってきたのはいつごろでしょう。

向山 大正時代のことだと思います。

早野 日本はヨーロッパと違って伝統もないうえに、宗教的な土壤もありませんが、しかし、ヨーロッパから導入された他の芸術分野と同様に、日本独自なものにしていくという可能性をもっています。

向山 箱根の彫刻の森美術館に、ステンドグラスの塔があります。この塔は、らせん階段を上っていくたびに、日本ならではの四季の感性が広がっていくという構成になっています。

外国の作家の手によるものですが、日本におけるステンドグラスのあり方を学ぶことができます。日本の作家も育っています。

早野 先生のこの「あじさい」も、やはり、日本的なものを追求されているという情熱が伝わってきます。日頃から自然に対する眼が養われているのですね。

向山 ヨーロッパの伝統と日本の感性が融合できたなら、というのが私の願いです。

材料の90%は輸入品 宝物探しの苦労も楽し

早野 日本におけるステンドグラスの水準ですが、先生の製作意欲に応えるだけの環境は整っているのでしょうか。

向山 材料の約90パーセントは輸入品なんです。国産は皆無といつていよいでしょう。需要と供給のバランスがとれないわけですね。そのことが日本におけるステンドグラスの状況という

ものを語ってくれると思いますね。

したがいまして、ステンドグラスを製作するということは、素材であるガラス探しからはじめるということになります。さらに、精度の高い作品を完成させようということになりますと、まるで宝物探しの心境になります。

たとえば、赤色でも、種類も色も限りなくありますから、イメージに合ったガラスを得るために偶然を期待するほかないところもあります。

早野 システム化された情報源や、ネットワークもない、画材屋さんのような専門店が育つまでにはいたってないのですね。

向山 私は貿易港のある名古屋、大阪へ足しげく出かけまして、ガラス探しをしています。ひとり車を運転して出かけ、助手席にまでガラスを積んで帰ります。常に自分のイメージに応えてくれる素材を身の回りに確保しておく必要がありますから。

もう、一生かかっても使い切れないほどのガラスがあるのではないでしょうか。生徒さんたちが「私たちが後を引き受けますから」なんて、冗談を言うほどでしてね。それもこれも、ガラス好きということに尽きますね。

もっと暮らしのなかへ 環境芸術への取り組み

早野 ステンドグラスは「ひとつ

間である」ともいわれています。つまり、環境芸術であるということでしょうか。これは、都市空間、生活空間のあり方をたえず考えている私どもとしましては、たいへん興味ある言葉です。

向山 パリの街を歩いていますと、さりげなく、しかも素敵にステンドグラスが使われていますよね。やはり伝統文化の息づいた街ならばこそ、その印象を受けます。

日本においては、採光には注意が払われてきていますが、まだ生活の便利さが優先されています。しかし、ステンドグラスの窓は、実用的機能と、美的機能を合わせもらっています。採光とともに、さらにその「光の命」にも関心をもってもらいたいものです。

早野 よいものに出会っていない、いまだ知る機会がない、ということでしょうね。

向山 公共施設が積極的にステンドグラスを採用していくことも、普及につながっていくことだと思います。すでに、首都圏はもとよりですが、地方都市のステーションや、文化ホールなどでも使われはじめています。



ます。

これまで余剰の資金があっての文化性でしたが、これからは設計段階からの発想を望みたいですね。

早野 山梨においてはいかがでしょ。先生の手がけられた御作をいくつかご紹介ください。

向山 はい。河口湖町の「ハーブ館」、竜王町の「働く婦人の家」、身延町の「ショッピングセンターコマ」、八田村の「アーバングリーン八田」などです。あとは一般住宅を手がけています。

早野 さらに身近なものにしていくためには、教育も必要ですね。

向山 ステンドグラスといいますと、いまだにガラスに色を塗り付けることだと誤解している方が大勢います。色を塗るのはイミテーションです。そのたびに、絶句してしまうのと同時に、教育の大切さも痛感します。

そこで、3年前から、小中高の美術の先生方を対象に講習会を開かせていただいている。先生方をおいて、さらに子供たちにステンドグラスに親しんでもらいたいという願いからです。

私のデザイン、私の色 世界にひとつの傑作づくり

早野 教室や講習会での生徒さんはいかがですか。

向山 20代から、80代の方まで幅広い層の方が勧んでいらっしゃいます。みなさん、習われる前は必ず「不器用なんですが、大丈夫ですか」と尋ねます。難しそうにみえますが、やりたいという興味と意欲があれば、どなたでも進歩していきます。

早野 私にもできますか。

向山 それはもう。

製作にあたっては、まず、デザインを考え、ガラスを選び、それから型紙を作り、型紙に合わせてガラスを切っていきます。砥石をかけたりもします。ガラスを切り終えましたら、コバーテープ、つまり銅のテープで巻いていき、形を整え、ハンダ付けをしていきます。

最後の仕上げは、ブラシでよくこすり、洗剤で洗ったあと乾燥させ、パティーナ液をつけて腐食させ、味わいを出していきます。そもそもステンドというのは、この腐食するという意味です。

早野 なごやかな教室の空気が伝わってくるようですね。そうして生活文化が育まれ、それぞれ暮らしが豊かになっていくのですね。

向山 最初の作品が仕上がり、灯りがともされますと、その成果の見事さに、生徒さんたちは心を打たれ、また勧んでいこうと意欲的になります。

早野 崇高な芸術というのも尊いですが、住まいや、暮らしのなかの設備や道具など、身近なものが洗練されてこそ、文化の価値があるのだと思います。

感動はもう、かけがいのない暮らしだ一部であり、家庭用品と同じ言い方をすれば、必需品ですね。

向山 生徒さんたちの目的をもった表情、ものを生み出していく喜びの表情がいいですね。

早野 日々、ステンドグラスに明け暮れておいでの方ですが、なによりも、先生にたくさんの傑作を作っていただきたいと期待しています。よい作品は力です。きっと山梨におけるステンドグラスのルネッサンスがやってくると思いますよ。

[構成：三神 弘]



「あじさい」



「さくら」



「紅白梅衝立」



「雪見障子」



「迷夢」

何処が好きと聞かれると、必ず京都と云うります。それも秋の京都が大好き。色づいた木々とお寺のたたずまい……、思い出すだけで飛んで行きなります。

そんな私が木枠を見つけました時、これを目に見立て、「京都の夕暮れ」をデザインしてみようと思つたのです。庭石と飛び石はガラスを溶かすフィーリング技法を用いています。遠近感を出すために、山なみはうしろから紫のガラスを使い一枚重ねとし、三重の塔はシルエットにしてみました。

前庭のつじの花は立体感を出すために、ひとつひとつ花や葉を作りそれを組み立てていく技法、立体の立体、これを「立体ソリ」と名付け、私の特徴としています。この技法は一九八九年の世界デザイン博覧会・ステンドグラス部門入選作品「さくら」、第二十四回白鷹会入選作品「あじさい」などにも応用しております。

ステンドグラスというと、みなさんは洋風と思われますが、私は日本の伝統的な意匠をステンドグラスに取り入れたいと考へております。昨年の第二十五回白鷹会賞受賞作品「紅白梅衝立」も、紅梅と白梅が、それぞれの衝立の流水紋の中に、浮かび上がるよう「デザインしました」。

ガラスが好きで好きで、いやな事がありましても、工房に入り、ガラスと接しておりますし、頼ばなくてはと音欲が湧いてきます。オリジナリティがあり、「遊び心」や「こだわり」のある作品作りを元からも心がけていきたいと思っております。

何が変わらぬか金融再編のもたらすもの
私たちの経済認識の変化とその対応

日本版ビッグバン

昨年末から新聞紙上を騒がせているビッグバン。金融制度改革という名前を、その先達であるイギリスの改革になぞらえて付けたものだ。とはいっても、素人目では何のことかよくわからないところも多い。複雑な金融用語が錯綜していく「だから何なの?」という見方が大方の感想だろう。それではビッグバンとはそもそも何なのか。ちょっと触れてみよう。

起

このビッグバン。簡単に言ってしまえば金融の自由化ということ。元をただせば、規制緩和を求めるアメリカの要求によって始動したものだ。特に世界一高いと言われている証券の取引手数料を自由化しようというのが狙い。実際、ウォール街、シティ(イギリスの金融街)、オーストラリア、シンガポール、上海などの海外市場と比較しても、株式売買の手数料が6割高というのが現状で、そのため大口の海外投資家が東京市場からの撤退を相次いで表明。そのため市場に資金が流入しないというジリ貧状態となっている。

ようするに今回のビッグバンは、座して死を待つか、それとも大手術で犠牲を出しながら生き残るのかの選択を日

本の金融市场が迫られたものだと言つてよい。証券も銀行も保険も相互に色々売をして、お互いのツケを減らしましようということだ。

承

具体的には消費者である我々にどんなメリットがあるのだろうか。関連があると思われるところをピックアップしてみよう。

- ・株式の売買手数料が安くなる
- ・銀行の窓口で証券の投資信託などが買える
- ・証券会社が投資家から一任されて株式が売買できる「ラップ口座」の開設
- ・有価証券取引税の軽減

・外国為替承認の銀行以外で、外貨の両替が出来るようになる両替の活用が可能

- ・自動車保険の扱いが自由化
- ・生命保険業務を銀行が代行できるようになる

個人のレベルで言えば、例えば銀行へ行ったついでに、株式が買えて、損害保険などの保険にもその場で加入出来たりするということ。これは折も折り、米国の大手格付け会社(企業を評価する会社)

上の問題として捉えると

- ・持ち株会社が解禁
- ・証券会社が免許制度から登録制へ移行
- ・ノンバンクによる社債やC.P.(コマーシャルペーパー・無担保約束手形のこと)の発行が可能
- ・証券会社に決済機能を持たせた資金総合口座の開設

となる。これは特に個人レベルで便利になるということではないが、企業サイドにしてみると、メインバンクならぬメインセキュリティーズ(取引証券会社)の誕生や設備投資へ回す流動資本をノンバンクから資金調達ができるといったメリットがある。

転

それでは猫も杓子も大賛成で、この金融大改革は、全てにメリットがあるのかーというと、実はそうでもないようだ。

もし、大蔵省の審議会が提示しているドラスティックな内容で事が進むとどんな影響が出るのか。

今、巷間で取り沙汰されているのが、倒産する金融関連企業が発生するのではないかということ。これは折も折り、米国の大手格付け会社(企業を評価する会社)

スタンダード&プアーズが日本の生命保険会社で危ない会社を指摘して話題となっているが、銀行、証券、保険の業界準大手や中堅の一部で自由競争激化による収益の悪化が進むのではないかという懸念がそれ。もし、そうなれば貯金の取付騒ぎはもとより、金融不安になるのではないかと言われる。

こうしたケースも想定して、ビッグバンでは消費者保護のための「預金保険機構」を設立して救済するとしているし、各業界も例えば証券業界などで自主結成している「寄託証券保証基金」によって消費者の保護を図るというが大丈夫なのか。

ところが、これが実は危ういという話もある。

この基金の財産は現在、350億円。これは補償額でいうと一社当たり20億円程度。例えば総合証券と言われる証券会社は48社。そのうち大手4社での株式による預かり資産は数十兆円。準大手でも数千億円と言われている。基金の財産350億円を仮に総合証券48社の頭数で割ってみると、一社当たりの準備金がたったの20億円。この程度の差額しかなくてどうすれば消費者救済に当てることが出来るのか。裁判所が

財産確定のために保全命令を出すと、その時点で預金者が現金を引き出すことは事実上不可能となる。その上、債権順位は個人レベルでは低くなり、泣き寝入りしなければならない可能性もある。

また、持ち株会社解禁から、金融の系列化が促進される。本家イギリスのビッグバンでは自国証券会社が次々と買収され、外資系となってしまったと言う。日本でもそれが起きないとは言えない。そうなれば個人主義と自己責任を重んじる外国企業のこと、「そこに投資したのは自分自身なのだから」という理由で、過剰な消費者保護はしないのではないかというのが大方の予想だ。

護送船団方式といわれる横並び経営

を尊しとしていた日本企業にこのドラスティックさを乗り切る体力は本当にあるのだろうかと、つい疑いたくなる。

結

完全な自由化によって競争が激化する金融市場。銀行も保険会社も証券会社も自社の存続をかけた攻防が展開される。その中にあって個人のレベルでどのような選択をすればいいのか。安易な選択を避けて、自己責任に基づいた冷静な選択ということくらいか。

しかし、どうもこのビッグバン。業界の利害調整で、官民一丸のお決まりの玉虫色決着でシャンシャンという線が見え隠れしてならない。

[文:新谷敏之]





体育館に行こうよ

ボールのはずむ音、キラキラと小気味よいシューズ音、体育館の雰囲気ってなんだかイイよね。根性でもない、特訓でもない、ホントのスポーツってやつをみんなでたのしんでもらいたい町の体育館。ドリームな選手はそんな中から生まれます。



「昭和町立町民体育馆」
施工場所 中巨摩郡昭和町
施工 早野組・長田組土木・佐野工務店JV

株式会社 早野組

本社 ■ T400 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL 0552-35-1111(代) FAX 0552-35-1109
東京支店 ■ 〒193 東京都八王子市千人町2-5-24
TEL 0426-67-8800 FAX 0426-67-9497



中部支店 ■ 長野県新潟市西中平2821-1 TEL 0265-22-3969 FAX 52-2171
新宿営業所 ■ 東京都新宿区西新宿4-41-407 TEL 03-3376-2887 FAX 3375-7124
静岡営業所 ■ 静岡県静岡市大通2丁目4-7 TEL 054-246-2503 FAX 246-2510
岐阜営業所 ■ 岐阜県土岐市泉町の木町1丁目32 TEL 0572-55-2834 FAX 55-0817
神戸営業所 ■ 長野県駒ヶ根市赤穂3469-1 TEL 0265-63-0300 FAX 61-5468

企業ウォッチング

株式会社 岩野

取締役社長

岩野 秀夫
いわの ひでお

●株式会社岩野データ●

昭和23年創業。組合食肉販売を行なう。中甲富士屋市テル、南鎌市テル、ステーキハウスボルドー、カルボナード、甲府国際カントリークラブ、甲斐美谷カントリークラブ、石和温泉病院、春日居温泉病院、各市町村小中学校などを得意先とする他、スーパーに直営店を持つ。
本社 T406 山梨県東八代郡石和町松本480-1 TEL 0552(62)2732



親が始めた商売をそのまま引き継ぎ、今年で創業45年。「朝はいつも、明るくなつてから起きることはないですよ」という言葉に、たぐいまれな精神の持ち主であることが予想できる。自ら作業台に立ち、自ら競りに出向く。

当然のこととして行なっている一つひとつが、実はかなり大切なことではなかろうか。お話を伺って、ますますそんな気がしてならなかった。

経験こそがモノをいう競り

西は蘿崎、東は勝沼、南は境川まで、「岩野の肉」のお得意先は県内広範囲にまたがっている。

「ホテル、レストラン、ゴルフ場、病院、学校などへ肉を配送する納品業務と、直営店を通して肉をお売りする小売業務とがあるんですが、わが社は、両方が同じくらいの比率ですね」と話す岩野社長。得意先を幅広く持つことは、肉をムダなくさばけていいそうだ。

豚だけでも、1日に多くて35頭、少なくとも20頭、ひと月で500頭くらいを競り落とす。豚や馬については県内産だが、牛は、茨城や山形、岩手、佐賀など他県からも調達する。お客様の注文によって、輸入肉も全体の2割ほど取りそろえているという。

毎日、午後になると石和の食肉流通センターへ、競りにでかける。肉の見極めは大変に難しく、30年余り通い詰めている岩野社長といえど、いまだに全て正しく当てはまるかどうかとひかえめに語る。「まず雌か雄か、雌なら子供を産んだことがあるか、子供だったら産まれてどのくらいかななど、すべて外見から情報を得るわけです」自分の目だけが頼りという競り、まさに経験がモノをいう世界だ。

「加工されている肉を仕入れて売るのなら、誰が見てもわかるでしょうが、じつはそれまでに鮮度が落ちてしまっているんですよね」。

納得できる商品づくりにこだわりたい

「食肉はとにかく鮮度が最優先ですから」そんな言葉を裏付けるように、岩野社長にはいくつかのこだわりがある。そのひとつが仕事場だ。つねに無風で15℃を保つという作業場は、天井裏で冷やされた冷氣が自然に降りてくる仕組みになっている。冷蔵庫の中に冷蔵庫があると思っていただければいい。だからといって大量に肉を保管し、必要なときに順次出してゆくというのでは決してない。

「新鮮なお肉を、明日にはお客様のところへ届くようしている」、そのこだわりこそ「岩野の肉」が高品質である証拠だ。しかし、こだわりを実現し続けるにはそれなりの手間がかかる。前日の競り落とし0℃で保管していた肉を、翌朝すぐ調理して、配送する。流通経路の複雑なスーパーだと店頭に並ぶまでに3~4日はかかっているところ、岩野ではたった1日ですむ。

「仕事をもっと楽にしようと思えばできることはないんですが、どうも古い習慣から抜け切れなくて」と、照れ笑いしながら応える岩野社長。

毎朝4時には必ず起き、4時半には自ら包丁を持ち、肉の切り込みを行なっているそうだ。「自分が納得できない商品はどうしても出せない」という「譲れないこだわり」が、大きな信頼を呼んでいるのに違いない。

エネルギーに満ちあふれた会話が壮大だった。

[取材：原田陽子]

読み聞かせボランティア なでしこの会

本の扉を開いてこそ 知ることのできる世界
未来の大人たちのために
その扉をそっと開いてあげたい

お気に入りの本は何ですか？ そう問い合わせたら、さてあなたはどんな本を挙げるでしょう。

なかなか読む暇がない、という人も、とにかく本好きでねえ、という人も、これまでにあなたの心をとらえた本がきっといくつかあるはずです。人を魅了し、感動を呼び起こす本の数々。

本というのは実際、手にとって読んでみない限り、そこに盛り込まれた内容を永久に味わうことはできません。ましてや「読む」ことさえおぼつかない小さな子供たちにとっては、ストーリーを堪能することはまだちょっと無理。子供たちには、重すぎる本の扉を、ほんの少し手を貸して開いてあげる。

大人にできるそんな心がけを“読み聞かせ”という形で実践しているグループを、ご紹介します。

本好きがこうじて始めたボランティア 少しでも多くの子供に、読書の楽しさ伝えたい

お話を伺ったのはリーダーの小沢奈美江さん。

「昨年から約1年間、甲府市立図書館でのボランティア活動を目的とした『読み聞かせ講座』があり、それに参加したのがきっかけです。『日本子供の本研究会』所属の角田準子先生に、月4回ご指導を受けました。『なでしこの会』は、終了生たちが集まって始めたボランティア活動だそうだ。「時間に追われる毎日で自分の子供にはあまり本を讀んであげられなかった」とも話してくれた。

メンバーは、20代から40代までの女性たち。中には子育てしながら、仕事を抱えながらの若い母親もいる。



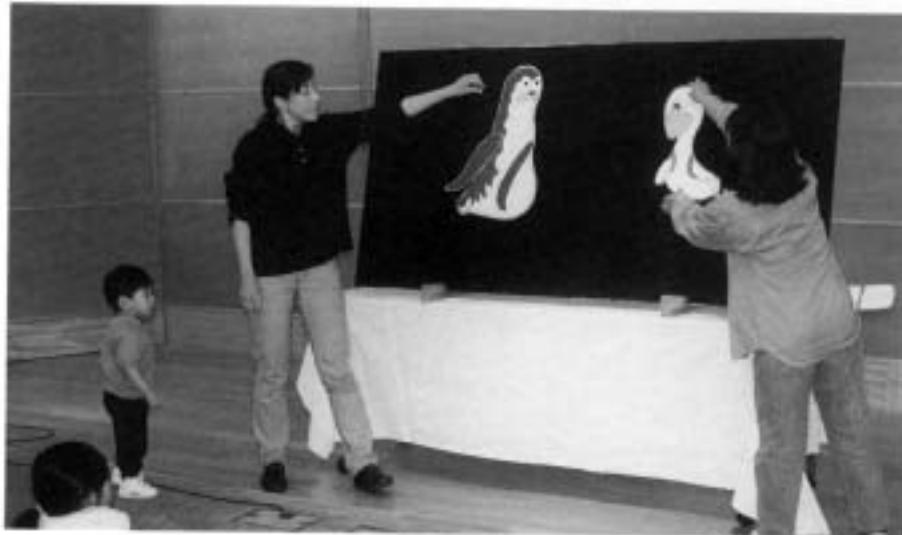
熱心に“読み聞かせ”を行なうメンバーたち

「みんな本が好きな人ばかり。本を通して子供たちと楽しい時間が共有できるのが、何よりうれしい」という。ふとひとりになって何か考えたり悩んだりするときに、意外なほど大きな力となってくれるのが本。元気をなくしている人には癒しを、知識を求めている人には情報を、何かを模索している人には思わぬヒントを与えてくれる。周りの人に頼れない、いざというときにも心強い。またスリルに、ロマンスに、サスペンスにと、思考力や想像力を豊かにしてくれるのも本だ。

「活字離れがさかんに言われるこの頃、本の世界へ少しでも多くの子供たちに興味を持ってもらえたなら、と思います。これから大人になるにつれ、道に迷ったり、はぐれたりしても、自分の力で立ち向かってゆける力を本が与えてくれるのではないかでしょうか」。

おしゃれではつかめない子供の心 好印象を与えるための努力や工夫は欠かせない

「いちばん頭を悩ませるのは、本の選び方。幼児から



「子供たちに読書の楽しさを知って欲しい」と小沢さん

年長まで、集まつた子供すべてに対応できる本を探すのはなかなか難しいんです。たとえ内容がすばらしくても、子供たちが一様に興味を寄せてくれるとは限らない。教訓めいたことをつまらないと感じるの子供も大人も同じですね。だから私たちは、本を“与える”的ではなく『こんなお話もあるよ』と小さな友達に“知らせてあげる”ような気持ちでいます。

読んでいるうちに子供の目がきらきらと輝いてくると、成功の手応えを感じるそうだ。

「努力は惜しません。どうしたら子供たちの心をつかむことができるかに夢中です。発声の練習や下読みなども、自主的にやってますよ。読み聞かせがひととおり終わった後に、「これ、読んで」と自分で見つけた本を持ってくる子供もいて、そんなときは本当にうれしいですね」。

5月10日に実施された拡大読み聞かせ（1階視聴覚ホールでの特別イベント）でも大好評を得たという。定期的な活動で大変では？と聞くと、「メンバーがお互いフォローし合い、気軽にやっているから」との答えが返ってきた。

「ボランティアという点に、特別こだわってはいません。社会参加していることが実感できるし、満足感も得られますから。それに私たちの活動は、まだまだ始まったばかり。これからも、あせらず

たゆまず、息の長い活動をしていきたいんです」とおだやかな口調で語ってくれた。

[文：原田陽子]

◆読み聞かせボランティア なでしこの会◆

平成8年の甲府市立図書館オープンとともに、本格的に始動した「なでしこの会」。毎週土曜の午後2時から第2・第4木曜の午前10時半から、それぞれ約1時間ほど、2階おはなし室にて子供たちに読み聞かせを行なっている。現在、会員は35名。月1度の定例会で勉強する。人形劇や紙芝居、ペーパーサートなどレパートリーも豊富。

連絡先：小沢奈美江
〒400 甲府市瀬村3-19-27
TEL 0552-51-4031



楽しいお話をぎゅうぎゅう

早野グループ4社から 一番ホットな情報をお届けします

トヨタピスタ山梨のCMが「スタコラ、ビスタ」に

トヨタピスタ山梨から地域の皆様にお届けしました「大感謝祭」のCMは、もう見ていただけましたか？“次から次へと乗り込む人に、自動車がついに怒り出してしまふ”という設定に、思わず笑ってしまった方も多いのではないでしょうか。

今回はそのCMに新しい内容を加えて、トヨタピスタ山梨をより身近に感じていただけるようなものに仕上げました。キーワードは、「スタコラ、ビスタ」。どんな意味を持つのかは、見てからのお楽しみですね。このキーワードが皆様のお茶の間に流れるのはほんの3秒間ですが、一層楽しい内容に変わったことは間違ひありません。放送期間中は見逃さないように、しっかりチェックして下さい。

「スタコラ、ビスタ」のCM同様、これからもトヨタピスタ山梨をよろしくお願いします。



トヨタピスタ山梨(株)
本社：甲府市朝日3丁目10-21 TEL0552-32-5511

トヨタホーム協力会発足

この度、平成9年4月30日、古名屋ホテルにおいて、「トヨタホーム協力会」設立総会が開催されました。

会員は、施工協力会社37社から構成されています。

会長に、(有)総合設備石坂・石坂忠保社長、副会長に(有)遠藤工務店・遠藤和宜社長、(有)宮野タイル工業所・宮野昌訓社長、理事に、(株)インテリアのざわ、(有)加賀美塗装店、(株)新装建設、(有)望月重機工業、渡辺興業、監事に依田瓦工業、(有)エルテックの計10名が役員に選出されました。

相談役として早野社長、清水専務、荻野常務、他参事7名の計10名がトヨタホーム山梨(株)より選出されました。

尚、当日は、トヨタ自動車(株)より山梨事業所・清水所長様、地区担当員・栗田様、施工関係担当・荒木様にご臨席賜り、お祝いの意を頂戴致しました。

今後とも、トヨタホーム協力会をよろしくお願ひ申し上げます。



トヨタホーム山梨(株)
本社：中巨摩郡昭和町西1043 TEL0552-73-1234 FAX0552-73-7806

事故防止活動

貨物自動車運送事業は、公共輸送を担うものとして重要な役割を果たしています。輸送の安全を確保することは、当社に課せられた使命であり、その達成には、運行管理体制の確立と適正な運営が不可欠です。そこで、事故を未然に防止していくための社内活動が重要なことは言うまでもありませんが、全社一丸となって活動を展開することが必要となります。

当社では、運行管理者で構成される事故撲滅委員会で事故防止の活動の内容、方法などを決定し、各運行管理者が中心となり7グループに分かれ、全社員の安全意識の高揚に努めています。

平成7年、8年そして今年の当社の事故要因を見ると、バック時での接触事故が最も多く、統いて前方不注意・わき見運転の事故、内輪差の判断ミスによる接触事故となっています。しかも入社間もない若年層の事故割合が高くなっています。今後、入社時での社員教育の一環として行なっている運行管理者の添乗教育を年令を広げ、強化・推進することが重要だと思われます。

また、事故が起きた場合、事故が発生したという結果があれば、当然その事故を引き起こした原因があります。当社では、幸いにして死亡につながる重大事故は起きていませんが、大きな事故だから原因も大きく、小さな事故は原因もいたしたことはない訳ではありません。したがって、軽微な事故の場合でも「人」「環境」「車」から原因を十分に探し、問題点を明らかにして、事故の再発防止に向けて取り組むことが必要となります。

甲府通運(株)
本社：中巨摩郡田富町南通田3329-1 TEL0552-73-0611

「エコメロウマット」も商標登録

「レジモルキャップ」に続き「エコメロウマット」も商標登録されましたのでお知らせいたします。

「エコメロウマット」は豆砂利（5mm～10mm）とゴムチップを混合し、ウレタン樹脂で固めたものです。自然環境保全に役立つよう、産廃をゴムチップとして有効利用したりサイクル商品です。①弾力性に富み、歩きやすい②透水性で表面に水がたまらず、雨の日も快適③豆砂利の色彩が自然とマッチ④樹脂が透明なため、好きな色が選べる⑤抜群の耐久性で安心して使える、などが特長です。前号でもお知らせしましたが、商標登録したことにより、「エコメロウマット」を文中で使用する場合には「」や“”で括ったり、行を変えずに1行で同一文字、同一間隔で使用して下さい。



「エコメロウマット」
登録番号 3268795 登録日 平成9年3月12日
権利の存続期間 平成9年3月12日～平成19年3月12日

(株)早野組
本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL0552-35-1111

キリスト教大名有馬晴信の
終焉の地 大和村丸林
その墓は国道20号の鉄脚に埋まり
永遠に鉄の十字架を背負わされている

有馬 晴信

(ありまはるのぶ)

昭和27年(1952)のことだった。初鹿野村役場(現大和村)にお願いして、武田氏滅亡の資料を求めて、佐藤森三氏ら数名で天目山桜雲寺に行ったおりのことである。そのころ寺は衰微して荒れるがまま。史料は分散して檀家の人々がそれぞれ保管していたので、それを持参してもらい、写真に撮ったり、実測したり、聞き書きを取ったりで大変だった。

その集められた史料の中に、赤ラシャの見事な軍旗が五旒もあった。武田勝頼のものと伝えているという。ラシャといえば織田信長は天正8年頃からラシャの大きな南蛮帽をかぶったり、赤ラシャの陣羽織やマントを羽織っている。天正期の赤ラシャ流行が戦争に色濃く反映していて、私はその軍旗に魅了された。

ところがさらに一人の檀家が持参した、虚空蔵菩薩像という一幅を見せられたとき、驚きで胸が詰まりそうになってしまった。伝えではその赤ラシャが流行った時代、キリスト教大名有馬晴信が天目山下の丸林に流謫、死罪にされたとき、島原半島の日野江城に飾られていたこの画像を、関係者が腹に巻

いてひそかに持てて来たのだという。そのため折り目がこのように付いていますと、その古老から説明をうけた。私は靈感のようなものを受けて、体が震えてしまった。

一応仏画形式になっていて虚空蔵菩薩と言われているが、しかし仏画形



この石垣の真下に晴信の墓は埋ってしまった

式からあくまで外れ、胸には鮮やかに金色燐然とした十字架が描かれている。まぎれもない隠れキリストンの證。それに画像もよく見ると、絵師が型にはまって描いたものではなく、その技法はヨーロッパの油彩画のような描き方で、色彩も鮮やか、日本伝統の仏画にはない自由な表現に、私はすっかり惹きつけられてしまった。しかも体の四隅にマリアのような朱印もある。私はかねてからキリスト教の殉教史に

上野 晴朗

うえの はるお

1923年山梨市生まれ。歴史家・作家。県立図書館郷土資料室を経て67年から文筆活動に入る。著書に「甲斐武田氏」等多数

注目していたので、役場にお願いしてみんなと別れて、その日は田野温泉に泊まり、その処刑地と墓所を特別に見せてもらいました。その場所は日川の渓谷に沿う丸林という所で、そこから4キロばかり上流には例の武田氏滅亡の地、田野の景德院がある。そしてその天目山下で散った武田の武将有賀下野守の子善左衛門がこの地に住みつき、有馬晴信の墓所と位牌を守っているというので、まずそこを尋ねてみることにした。するとその子孫といわれる有賀今朝市家には、小さい木の箱に位牌が納められていて、一つには「晴信院殿迷智宗転大禪定門」と戒名が記されていた。もうひとつの中には「晴信院殿迷智宗転大禪定門 慶長拾七年五月六日・有馬修理太夫晴信君本国肥前国城主・諱好院殿幽智宗転大信士・有馬佐兵衛門尊位」と記録されている。江戸幕府の禁教令下であるので、一応仏式で仏名を入れたのであろうけれども、どこの坊さんが付けたものか、ずいぶんと皮肉った戒名である。その有賀家から日川の谷へ下ると、ちょうど流れが折れ曲がった左岸にひとむらの竹林と雑木が生えている場所があつ

た。その竹林が垂れ下がった南向きの場所に、粗放な野面積みの1mほどの高さの石垣があり、段上に二、三の石祠が祀られていて、そこが晴信の墓所だといわれた。

一方では豊臣秀吉によるキリスト教弾圧がすでに始まっており、その去はむずかしかったが危機をのりこえて、秀吉から一応日野江城四万石の領主になることを認められ、文禄元年(1592)からは約7年間も朝鮮の役に出兵を命ぜられている。

一体、キリスト教大名有馬晴信という人は、どのような人物か。彼は永禄10年(1567)肥前国島原半島の大名有馬義直の次男として日野江城に生まれた。普通なら國主になれないのに、たまたま元亀2年(1571)22歳も年齢が違う國主の兄義純が病没してしまったので、わずか5歳で日野江城主にすえられてしまった。九州の長崎・五島島原半島というのは、天文年間以後、ポルトガルとの交易とキリスト教文化の渡来により、日本でも有数のキリスト教文化に脱皮をとげている。晴信は初名を鎮純といった。幼年の領主時代は仏教徒に利用されて、仏教に帰依させられていたが、天正8年(1580)13歳のとき念願かなって強行しようとした政治的意図か

虚空蔵菩薩像／山梨県文化財（棲雲寺蔵）
手にクルスを持ち晴信が日復日拝していた

有賀家のかたわらに移された今宮明神と戒名のある墓印

ら、強引に棄教を迫られたり、それが駄目だと判ると、今度は他のキリスト教徒への見せしめのため、憎悪感情丸出しにして、蟄居・流罪に追い込まれて、ついには甲斐丸林の地で非業の最期をとげるに至った。

この歴史の流れの裏には江戸の老職にあった本多正信と、大久保忠勝の激しい勢力争いもからんでいる。結局大久保派が誅滅をうけ、甲斐では大久保長安も連座させられてしまう。

晴信事件の発端をつくった岡本大八は、正信の息子本多政純の与力であったため、本多派はこれを不利と見て、死人に口無しで真っ先に槍玉に上げ殺してしまい、有馬晴信の方は手におえないキリスト教大名として葬り去った様子が述べられている。

それにもしても、いま現地に入つてみると、かつての墓域はちょうど国道20号の有料トンネルが作られた当時の西の出口にあたり、橋桁の下のコンクリートと鉄脚の下に埋められてしまつて見る影もない。わずかにその墓標が崖間に移されているのみ。まさにこの希有の人物は永遠に鉄の十字架を背負わされているのである。

ボクの美術品観察日記 6

庭に埋められた少年の謎

山本 育夫

やまもと いくお
1.オーディアム・マガジンDOME（アーム）／美術品観察AW
(エイ・デブリュ)／美術批評・展覧会批評誌LR（エル・ア
ール）編集長
週刊朝日に展覧会批評連載中

見ることの曖昧さ

人間の目とは不思議なものである。目に映る世界を全てきちんと見ているつもりでいても、実は人間の目が見ている世界はピントの合ったある場所だけであり、その周囲はぼんやりとほやけて見えている。ちょっと試していただきたい。今読んでいるこの文章の、ある文字を見てほしい。するとその文字の箇所はピントが合っているけれど、その周囲はぼんやりと見えているだろう。つまり、人間の目はいっぺんに世界をピントの合った状態で見ることなどできないのだ。

「おれはちゃんとこの目でみたんだから」というような「証言」がいかに曖昧なものなのかは、読者諸兄も経験的にご存じのはず。だから幽霊や手品師はどんなに時代が変わろうとも依然としてその存在価値を落としてはいないのだ。

庭に埋められている?

今回ご紹介するマネの「花の中の子

供」(図版1)、そうと言わなければ、「花を見ている少年の絵」として、ごくのんびりと鑑賞できたはずである。ところが、ボクはすでに大きく表題に、「庭に埋められた少年」と、こう、書いてしまった。読者諸兄もそれを読んでしまっている現在、この少年は、もう、「花の前に佇む普通の少年」ではなくなってしまっているにちがいない。

ボクが、「庭に埋められている」と考えたのにはそれなりの理由がある。疑問その1／少年の隣にある花瓶について考えてみる。この花瓶の下半身、つまり草に隠れている部分はどういうことになっているのだろうか?隣の子供の全身像を思い浮かべてみると、この花瓶の「下半身」が想像できるだろう。なぜってこの子供と花瓶は同じ庭の上に「ある」はずだからだ。わかりやすいように、ボクが主宰している美術品観察学会の解剖教室で、コンピュータ・グラフィックにより花瓶と子供の隠れた部分を再現してみよう。

絵を解剖してみると

さていかがなものであろうか。花

瓶に生けてある花の様子からして、この花瓶の底がそんなに深いものだとは考えにくい。花瓶の大きさはこれくらいの大きさだろう(図版2)。それに比べて子供のほうはどう考えてもこのくらいの大きさはある(図版3)。つまり、もし花瓶が子供と同じ庭の上にあるのだとしたらば、何かの台の上にのっているとしか考えられない。

ところで、その問題はともかくも、子供の全身の大きさから考えてみて、あきらかにこの絵における子供と手前の草花との関係が怪しく見えてくるのではないか。手前の草の生え方からして、この草が子供と同じ丈を持つ草とは考えにくい。とするとせいぜい子供のお腹の辺りくらいまでの丈の草花だろう。

うううむ、問題は草花が生えている地面と、子供や花瓶がある地面とは同じ高さなのだろうか?ということになりそうだ。つまり、草花が生えている地面と、子供が立っている庭の間に深い段差がある、ということならば、なんとか納得ができる。

マネは、1860年代には日本の浮世絵や尾形光琳などの光琳派の影響を

受けていたといわれている。

光琳の「燕子花園屏風」など

の影響を、手前の草の表現にみることができるかもしれない。当時の日本人の絵師たちは「省略の達人」であったから、理不尽なところは全て省略してしまうという。まあ、のどかなところがあった。そういうのどかさに、遠近法でがんじがらめになってきたマネたち西欧の画家たちは、ほっとしたのかもしれない。

しかし、納得できないのだ!

しかしだ、だからといってこの絵を、のどかに好意的に解釈するのは観察学会員としては「共感できないよね」ということになる。手前の草花と少年の間には深い段差があるんだって?冗談じゃない。事実は図版4のとおりだ。

恐ろしいことにこの少年は、この庭の持ち主でありこの絵の依頼主でもあったマネのパトロン、エルネスト・オシュデの手により、庭に埋められてしまったのである。

この少年はオシュデの長男のジャックであるといわれている。オシュデは



図版1



図版2



図版3



図版4

「たまごっち」に 藤崎紫織（？）
ペットのようにつきあえる
“育てゲー”が 今、大人気！

ゲームにもいろいろありますが、中でもキャラクターをペットのように育てられる“育てゲー”が今年は大人気。

ひと昔前までは、ゲームといえば勝ち負けで、とにかく点数を競うことしかできなかつたのに、最近は3Dとかバーチャルなんという言葉もさかんに飛び交うようになりました。昨年からは、コンビニでもゲームソフトを売り出しましたよね。ゲームいうことがために、置いてきぼりをくつてしまふなんて、ちょっと残念。

なので今回は、流行りの“育てゲー”を中心に、今どきのゲーム事情をまとめてみました。

「たまごっち」ってイッタイ何？

’96年11月に、バンダイが発売したあの「たまごっち」。“手に入りにくい”という口コミ情報が引き金となり、女の子の間で爆発的な人気を呼びました。裏で市場操作があったらしいとか、いろんなウワサも耳にしたのではと思ひます。

タマゴ型をして、時計（ウォッチ）を内蔵しているから「たまごっち」。手頃な価格（1800円）で、いつでもポケットに入れて持ち歩けるミニサイズ。液晶に現われる小さな生物にごはんをやったり、トイレの世話をしたりして育ててゆきます。育て方によって姿や性格、寿命を変えるのが特徴で、たとえば、たらこくちびるをした「たらこっち」、まじめな「まめっち」、酒好きで女好

きの「おやじっち」などいろいろに変わることです。

忙しい人のために、1時間50円で面倒を見てくれる「たまごっち」託児所もできたりほど。スゴイ！のひとことですよね。



社会現象にまでなった「たまごっち」

藤崎紫織 17歳 バーチャルでハマる恋

同じ“育てゲー”といえど、ゲームによって育てるキャラクターはいろいろ。たとえば、花の女子高生を育てるのは「ときめきメモリアル」、熱帯魚を飼育するの



は「アクアゾーン」、モンスターを育ててゆくのは「ポケットモンスター」というふうに…。

「ときめきメモリアル」（プレイステーション／コナミ／5800円）は、登場する女の子のリアクションが最高で、人工知能を持っているのかと思わず錯覚してしまうほど。コンピュータ・グラフィック（CG）で描き出されるこのゲームの主人公・藤崎紫織は、スタイル抜群で愛らしく“バーチャル・アイドル”とも呼ばれています。

「ポケットモンスター」（ゲームボーイ任天堂／3900円）は、’96年2月に発売して以来、250万本を超す売れ行きのゲームソフト。7年の歳月をかけてできたというだけあって、そのオリジナル性がおおいにうけました。

“育てゲー”とはちょっとジャンルが違いますが、今どきのゲームを語るのに忘れてならないのが「スーパーマリオ64」（NINTENDO64／任天堂／9800円）。画面の中を360度、自由に動き回れる感覚はまさに世界初の3D。ゲームで遊ばなくても、見ているだけでおもしろい、一度は“見て”みたいゲームです。

とまあ、今どきのゲーム事情はこんな具合。家庭用ゲームがだんだん高度になってくる一方で、携帯可能な「たまごっち」のシンプルさが光っています。これからも何ができるかわかりませんが、ゲームマーケットもしっかりチェックして、デジタル社会を闊歩していってください。

こんなところに山梨 思いがけない場面で ふるさと再発見

山梨にちなんだ落語では「駿沢」が広く知られるが、もうひとつ「甲府い」がある。「情けは他人（ひと）のためならず」と語り出されるこの漸は、上京した甲府の若者善吉が、豆腐屋の店先からおからを盗むことからはじまる。店の親父が訳を開けば、巾着切に金を盗られて水ばかりを飲んでいたと詫びる。親父が飯を食わせ、帰りの路銀を貸そうと言うと「一心に働き、人になるまでは帰らないと身延に願をかけてきた」と断る。

それを聞いて親父は身を乗り出し「わたしも法華だよ、法華も法華も法華の固まりだ。この町内で法華豆腐屋とあだ名されているくらい」だとこの縁を喜び、自分の店で奉公することをすすめる。さて、使ってみるとま

ことに利口で、何をさせてもそつがない。男ぶりがよくて世辞愛嬌があるから売子に出ても人気がある。売り上げも上がるばかりだ。

そのあたりはこう語られる。「豆腐イ…へえこんにちは、おかみさんよ

情けは他人のためならず 路頭に迷った甲府出身の 善吉が豆腐屋に救われ やがて恩を返す人情漸

いお天気でございます、坊っちゃんはいつもおかわいらしくっておいででなさいます、へへへ、笑っていらっしゃる…豆腐イ生揚げがんもどき…親方、お仕事にお精が出来ますな、今日はご用はございませんか、どうぞまた頼います。豆腐イ…へえおかみさん、お洗濯でございますか、お洗濯のときにはお

湯を取りにおいでなさいまし、お豆腐のお湯は汚れものがよく落ちます」。善吉に惚れ込んで三度三度豆腐を買うという女房もでてくる。

稼ぐに追いつく貧乏なし…で、この法華豆腐屋はだんだん繁盛していく。親父は善吉を身延の授かりものではないかと思うようになる。やがてひとり娘の婚として迎え、店を善吉に任せると、という運びとなっていく。「情けは他人のためならず」の意味がここに込められている。

甲府を出てから九十年が経ったとき、善吉は女房を連れて甲府へ旅し、身延へもお札参りに詣でたいと思い立つ。漸の落ちはこんなふうである。

旅支度をして店を出ると、「豆腐屋さん、どこへ行くんだ」と町内の人にお声をかけられる。

善吉はそれに応えて、豆腐の売り声の調子で

「甲府イ…お参り願はどき」。

資料：立風書房「落語全集」三代目古今亭今輔

Book

ふるさと拓本隨想 「道祖神様ざま」

福岡正平著



かつて中学校の美術教師だった著者は、永年山梨各地の路傍の石仏・石造物めぐりを重ねてきた。七つ道具を三輪バイクにのせての旅である。採集された拓本は138。画家の觀察に支えられた独自の見解が示され、また、これまでの記録の誤りも指摘される。

拓本と写真、スケッチと文章が、味わい深い道筋の情感をかもしている。専門的書であることをこえて、道祖神めぐりに同行しているような読書の楽しさがある。「敷の中をよく見ると、萬にすっかりからまれているが、一風変わった顔がある。よし！本日の収穫はこれと決め、区長宅へ話し、作業にかかる。採拓に支障がない程度に

萬を切るだけでも大変だ。茎だけでなく萬の吸盤がこびりついている。丹念にブラシで吸盤を落として採拓した。採ってみると思いがけなく好い顔だ。角が三角形で面白い」。

建立が寅年なのを知り、干支として年賀状に使おうと考えたりもする。

道祖神めぐりは、人との出会いや、地域の固有な暮らしにふれる喜びをもたらし、ひとつひとつの道祖神への思いは、庶民文化への親しみと保存への切なる祈りともなっていく。あとがきに「二万五千分の地図が頼りだが、開発の方が早くて現地で迷うことがたびたびある」と記されている。（川）

山梨ふるさと文庫￥1,500

滝を見るハイキング

vol.2 殿入川 白糸ノ滝

写真と文 上野 巍



殿入川は、桂川の支流、欄干川のまた支流の小さな流れだ。水源は三ツ峠山から南に伸びる尾根の東面であり、水源域の面積はわずかなもの。したがって水量も少なく、豪快にしぶきを上げる滝は見られないが、最上部にあるこの白糸ノ滝のように、豆岩盤を伝わってサラサラと清流が流れ落ちる様もまたいいものである。

富士吉田市の最北端で、富士急行線の西にある白糸町がコース入り口。集落のはずれにある素朴な「白糸滝」



童子のようにあどけない顔つきの十七番観音

の標示板を見て、谷間の林道を直進する。一度右に迂回して戻った林道には、右上へ分岐する道があるが、それに入らず直進すると間もなく林道終点だ。

すぐに付近の案内板や丁寧な解説板があり、ベンチも置かれている。小さな橋を渡ってジグザグの急坂を登る。コースはよく整備されている。10分ほどで三十三観音の一部が見られる横道に出るので右折し、少し歩くともうアズマ屋もある白糸ノ滝の前に出る。

渴水期にはようやく岩を濡らす程度の水量の少ない滝だが高さはある。その僅かな水が豆岩盤を伝わってキラキラと落ちる様は、あたかも繭糸を吊したようなので、この名があるのでそうだ。左側の岸壁には、蚕の神である繭影神が祭ってあり、養蚕家の信仰を受けているという。

T字路まで戻って、三十三観音のそれぞれ違うおだやかな顔を見なが



綿糸のように細く白く清冽な水が流れ落ちる白糸ノ滝

ら登っていくと、地蔵尊があって桜並木。そして赤松自然林を抜け出ると、富士の展望が素晴らしい富士見台に達する。樂々のハイクコースだ。



白糸町のはずれにある滝の標識

【参考タイム】
白糸町—(車10分)→林道終点—
（20分）
→白糸ノ滝—(40分)→富士見台

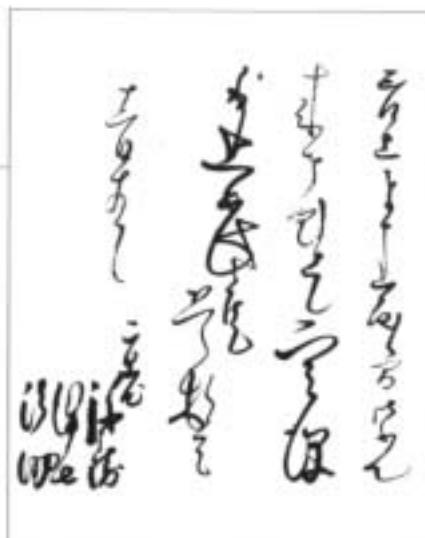
甲府通運前史を訪ねる（7）

〈甲府通運のページ〉

飛脚屋の奉公人から
山梨の生糸業界の中心人物となった
風間伊七

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・県史編纂文化財担当



伊七の書いた手紙、京屋茂兵衛、伊七、行助とあり
伊七の地位がわかる

風間伊七(かざまいしち) 1821(文政4)7・24—1907(明治40)12。金田村(一宮町)長百姓風間八衛門の二男として生まれ、天保2年(1831)、甲府山田町の定飛脚・為替営業村井弥兵衛の雇い人となつた。主家の負債償却と再興のため数年を費やし、やがて横浜開港による生糸貿易に利益を求めた。明治元年(1868)、鎮無使入峠に際して献金、名主格に任せられ、明治6年(1873)生糸条改会社社長、明治9年(1876)、柳町にフランス式60人練りの器械製糸場を建設し、次いで同志とともに山梨誠進社を組織、のち改めて風間組と称し、製糸改良に努めた。(飯田文弥)『山梨百科事典山梨日日新聞社1989年版』

この文で風間伊七についての履歴がわかるように、風間伊七は11才のときに甲府山田町の定飛脚風間屋京屋に奉公に出る。以下伊七の回想記(山梨県立図書館甲州文庫蔵)によると「当時甲府石和市川三代官役所に収納するところの年貢金為替方を担当す。天保七年飢饉により都留郡の一揆あり、それに関連のあった代官は失脚し京屋も巨額の損失を生ず。伊七は

一時生家に帰るも弘化三年再び主家えもどり再興に盡力する。五年のうちに嘉永四年に皆済することが出来る。安政元年二月岡島氏二女を娶る。同年十月居を柳町に設け生糸及び陶器の商ひを開き家人をして従事せしむ。予は京屋え通勤す、同六年主家家道再興の宿望達するをもつて主家を去る。主家は山田町から八日町見付に移ったが今もなお壳葉店の京屋として世間に知られている。其の山田町の旧宅は若尾家筋向いで石氏弁護士の東隣であった」。

11歳の若さでの奉公は、當時としては遅い方であるが、奉公先のごたごたに出逢い若いなりに苦労も多かったと思われる。甲州一円を一手に営業範囲としていたためか京屋の負債も皆済し安政元年(1854)に結婚する。伊七数え年34歳であった。妻は柳町岡島茂兵衛の次女ひさ、この茂兵衛の呉服店が現在の岡島百貨店に発展するが、茂兵衛の長男は魚町末木家と縁組し、その末木家の長男嘉七は明治5年には京屋の支配人になるというように、当時の甲府の商家では互いに関連企業どうして姻戚関係を結び企業発展をはかっていた

車地方治安維持のために派遣した役人

ユーザー訪問

“安心と安全を贈る”
三和防災のモットーに
防災と車との共通点をみつけた

三和防災 株式会社

国道140号を、山梨市フルーツ公園入口の交差点から、春日居・石和方面に向かってすぐ右手。道路に面した社屋の脇に花壇をつくり、信号待ちや渋滞でやきもきするドライバーの心を和ませてくれる、あの会社だ。

三和防災株式会社は、“安心と安全を贈る”をモットーに、消防ポンプから消化装置、消防用ホース、消火器など防災に関する機械、器具すべてを扱っている。消防士や消防団で着用する特殊服や窓ガラス用の飛散防止フィルムなども販売する防災専門会社

だ。「主人は全く別の仕事なんですが、次男が今、こちらを手伝ってくれてまして」と社長の広瀬美興子さん。

県内で、同じ消防用機械器具を扱う会社は32社。機械設備を専門とする7社を含めても、女性のトップは広瀬さんただひとり。消防という言葉からは女性はイメージしにくいが、防災に性別は関係ない。むしろ女性ならではの気配りは新鮮にさえ感じる。

広瀬さん自身は「ウチは従業員に恵まれているんですよ」とこやかな笑顔で話してくれた。

三和防災で現在活躍しているトヨタビスタの車は、全部で11台。アリスト、クレスタ、カルディナ、ハイエースのワンボックスにハイエースのトラックと人気車種が勢ぞろいしている。

そのうちアリストは、常務である次男の力さんが主にプライベート用に購入した。

「クレスタとはまた一味違う、格好よさが魅力ですよね」そう言ってチラリと目をやるしぐさが、かなりお気に入りの様子。

「クレスタはクレスタで、グレード感を実感できる車。落ち着いたところがいいんじゃないかな」明るく気さくな力さんの評は、それぞれの車の良さをズバリ言い当てている。「それと、アフターケアが充実してる点は欠かせません。ビスタさんなら任せられるという安心感と、ウチがお客様に提供しています安全とは結局は同じことなんですね。これからも信頼第一でやっていきたいと思います」。

自らも地元消防団に入り、活躍している力さんの指摘には、社業を愛し、車を愛する若者らしさで満ちていた。

〒405 山梨市万力827-2
TEL 0553-22-5188



〈トヨタビスタ山梨のページ〉



お家拝見

住む人のセンスが創り出す
こだわりの空間
新しい予感を秘めて

〈トヨタホーム山梨のページ〉



小野浩一さん宅（甲府市）

ふと見上げると見慣れた街並みにモダンな外観が浮かびあがる。3階建ては、最近流行しつつある住宅だ。ブラウンの明るい外壁に、手入れの行き届いた前庭が見事に調和している。清涼感あふれるそんな空気が流れている。小野浩一さんのお宅は、まずそんな第一印象を受けた。

拝見したお宅はトヨタホームの「エスバシオEL3」。最近、首都圏を中心にますます人気の高層住宅シリーズだ。

「昔から長いおつきあいの方がおりまして、家を建てるならトヨタと、決めていたんですよ」そう話す小野さん。約66坪

あるお宅には、1階にダイニング&リビングと和室、2階に寝室とゲストルーム、3階に個室とバルコニーを配してある。

「今は妻と息子の3人暮らしですが、ゆくゆくは息子夫婦と一緒に住めればと思いましてね」なるほど、3階にシャワールームとキッチンを備えているわけだ。それにしても2階のゲストルームといい、1階のバスルームといい、かなり贅沢なスペースを使っている。「ご覧のとおり、うちの敷地は、間口が狭い代わりに奥行きがあるんです。そこをどううまく利用できるかが、いちばんの課題でしたね」。

と苦労話を話すご主人の浩一さん。妻の千香子さんは草月流の師範をお持ちのこと。室内に飾られた花が、小野家に品の良い彩りを添えている。

「間取りを決めるのに担当の方と何度も打ち合わせをしたおかげで、冬は暖かく過ごせました。騒音もほとんど気にならないんですよ」まさに高断熱・高気密の住宅建築を誇るトヨタホームならではの住み心地だ。

「昨年の秋から住み始めて、早くも良さを実感できてしまうところはさすがトヨタホームですね。これから梅雨の季節と、夏を迎えるわけですが、断熱効果で快適に過ごせそうです」。

実はそんな小野さん宅、着工前に大がかりな地盤改良工事を行なっている。「地震に強い家を建てるには欠くことできない作業なんでしょうね。でもこれで、本当にいつまでも安心して暮らせます」。

貸駐車場と貸ビルのオーナーを務める小野さん。大変な読書好きなのは書棚を埋める書籍の様子ですぐわかる。ちょっと開いた小窓から入る風にのって、芳しい花の香りが家中に漂っていた。あかぬけた造りもさることながら、住む人のセンスや暮らし方で、家がますます引き立つことを教えられるひとときだった。



会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ

1960年代の街角風景



米山 哲雄

よねやま てつお

中学教師

まちの風景で忘れないものに、小学校時代を過ごした武田通りから宮前町そして住んでいた元紺屋町のそれがある。つい、先日も、愛宕山にのぼってみると、眼下に妙遠寺や養護老人ホームの聖ヨゼフ寮が見え、随分と懐かしくなってしまった。

当時、元紺屋町の住まいから、新紺屋小学校まで約15分の道のりには、いろいろな店があって退屈しなかった。学校の帰りには、いつも清川屋という肉屋の隣にある星野書店に立ち寄っては、漫画本を立ち読みする楽しみがあった。星野書店では「小学〇年生」という学習雑誌を見ることよりも、付録で分厚くふくれた『冒険王』や『少年画報』という月刊誌の方に興味があった。また、誇大広告にも魅力があって、いかがわしいとわかっていても、エジソンバンドや記憶力増進器なるものを通信販売で購入しては、がっかりさせられたことも何度かあった。少年マガジンやサンデーなどには、夢の超特急「ひかり」が、それこそSF的に取り上げられたが、特急や急行に乗ること自体がまだ贅沢で、東京の親戚に行くときは、きまってスイッチバックの純行列車であつ

た。油煙で黒くなっているひじかけを母親が拭いてくれ、東京からの帰りには菓子餅を頬張ったことが思い出される。

また、駄菓子屋の乙黒商店は学校の帰りの子供たちのパラダイスであった。日曜日などになると朝から賑わい、いろいろな駄菓子やおもちゃ、くじの周辺には、山のような人ばかりがしていた。近くの数野商店や乾物屋の小林商店へは、よくおつかいに行つた。お駄菓子と称するお小遣いをもらって、それを貯めておいて、ロイヤルモデルなどのプラモ屋さんに行って、戦艦や戦車のプラモを買うことが楽しみであった。

いつもきまって夢を見るまちの風景には、場末のこんな駄菓子屋やら本屋が必ず出てくる。そして、どれにしようかと迷っている内に目が覚めてしまうというパターンである。

昭和30年代後半から、40年代の初めにかけて、甲府で過ごしたものにとっては、中心街の生き生きとした活気のある風景が目に浮かんでくる。1960年代は、まだまだ、甲府の中心街…下町といわれる専門店や、岡島・松葉という百貨店などに行かな

ければ、買えないものがいっぱいあった。映画もまた、テレビにはとって代われない何かを提供していた。高度経済成長のかけ声は高くて、実際の生活は、まだ、貧しかった。白黒のテレビはあったが、まだ純天然色・シネマスコープ、ちょっと高級なシートに座って見ることができる映画にはかなわなかった。映画は映画である。テレビでは見ることのできない俳優(今日びのタレントとはやはり違っていた)にお目にかかることができる唯一の場所が映画館…邦画なら電気館や甲府宝塚であり、洋画ならセントラル劇場…であった。父親に連れていってもらった大映の武蔵野館で『ガメラ』を見たのも、つい昨日のことのように思われる。

60年代も終りに近づくと『キューボラのある街』に出てくるような貧しさの世界から、一生懸命に働いて、暮らしを少しでも良くし、中流階級に入りたいという願いが強くなってくる。カラーテレビ、カー、クーラーといわれる3C時代の到来は、大人や子供の暮らしぶりを大きく変えていくことになる。そして、甲府の街角風景も大きく変わっていくことになる。

山梨にピスタあり ピスタの魅力にますます磨きをかける リーダーがここにいる

トヨタピスタ本社の車両部長を務める

保坂行美さん(高根町) 49歳

てくれるという。

「消費税引き上げの時は、若干の影響はありました。おかげさまでイブサム、レジアスと好調に伸びています」と笑顔がひかる。

待望のフルモデルチェンジがある。今後半の商戦にむすびつくオールトヨタのキャンペーンとして、今から営業活動に余念がない。

「ひとりでも多くの方に気軽に来店していただきたいんです。ピスタの車は、丁寧にご説明してじっくり良さを知ってもらえば、必ずご満足していただけると信じていますよ」。

確かに、GOA(ゴア)なんかがそのいい例だろう。TVのCMだけではわからないような、細かい内容は、営業マンに聞くのが手っ取り早い。

「我々もプロという自覚を持ちながら仕事に当たっているわけですから、安い受け答えはしたくないです。長いおつきあいをさせていただくには、信頼関係が何より。アフターケアに重点を置くのも当然です」。

熱っぽく語る会話の節々から保坂さんの、仕事に対する実直な姿勢が伝わってくる。

ピスタのリーダーとして活躍のかたわら、地元・高根町では、ソフトボールクラブの監督を務めているそうだ。「ゴルフもやります」と眼鏡の奥で、思わず瞳が微笑んだ。まじめな人柄が随所からにじみ出ている。



現場を知りつくしている保坂さん

ピスタの良さを感じてほしい

8月中旬からは「秋の大感謝祭」がはじまる。そして下旬にはアリストも

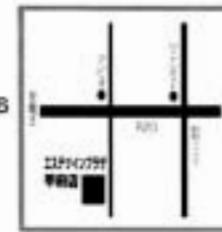
おしゃれ

気軽で手軽で身近なエスティックサロン
肌にいいものだけを追求しているのが魅力です

エステツインプラザ 甲府本店



営業時間 12:00~21:00
定休日 日曜・祭日
所在地 中巨摩郡昭和町西条3160-6
TEL 0552-75-6321



全国に113店舗を持つモアグループのサロンが、山梨にもついに登場。5月20日にオープンしたばかりの店内は明るい雰囲気が印象的だ。美顔を専門に、シミやシワ、クスミの気になる方からアトピーなど敏感肌の方までひとりひとりの肌に合わせていいなトリートメントを行なう。コースは、フェイシャル・超音波・吸引・電子・レーザーと5種類。値段も2000円~6000円と手頃だ。

コンピュータシステムが充実していて画面に映し出された色分けで、肌の状態を詳しく知ることができるスキンケア診断の他、プロボーション診断や栄養診断などがある。コースを利用した方は、スキンケアやネイルケア、メイクやカラーコーディネイト、ダイエットの方法など「4つのプログラム」が無料で受けられるもうれしい。またオリジナルの無添加化粧品やヨーロッパの人気ブランド「H-L」の補正下着も県内ではここでのみ扱っているので、ぜひ一度寄り道気分で気軽に立ち寄ってみてはいかが。



たべる

ぼくり 北口店



営業時間 平日16:00~23:00
土日祭日12:00~23:00
(オーダーストップ22:00)
定休日 なし
所在地 甲府北口店
甲府市武田2-7-20
TEL 0552-51-4129
リバーサイド店
TEL 0552-74-4129
石和店
TEL 0552-63-4129



個性的な店の雰囲気も またひとしお グループ客でいつもぎわう人気の焼肉店

焼肉といえば、ぼくり。山梨に暮らす私たちの間ではもう、連鎖反応のようにそんな答えが返ってくるのではないだろうか。甲府の北口本店で営業を始めて22年。ここ数年、リバーサイド店、石和店と相次いで出店したのも、どうやらお客様の強い要望に

応えての結果らしい。年間23万人という集客数が何より人気の度合を物語る。ぼくりがここまで私たちを引き付ける理由は何だろう。ちょっと気張った感じがするステーキを食べやすいサイズに切ってみる。本来ならスープで味わう肉を焼いてみる。そんなおやつと思わせるひと工夫がヒットした。

お客様に喜んでいただくことをつねに考えているという社長の朴 喜雄さん。ピコのぼくりで食べても同じ味を、と厳選した食材に自らタレを仕込む。おなじみの角切りステーキ(780円)、ハラミ(620円)、テール焼き(1200円)の他にも、個性的なメニューがいろいろそろっていて、なおかつ手頃な値段で味わえるという点が、じつに魅力的なお店だ。ご家族連れでぜひどうぞ。



お茶の間の民俗学(4)

一年中行事の習俗とその心

盆行事から秋への歩み

志摩 阿木夫 民俗学研究者
しま あきお



盆行事の由来

仏教が日本へ渡ってくる以前、また渡ってきて一般に浸透していなかったころ、すでに日本には盆の行事があった。

それは正月とともに年に二度行われた「靈祭り」という名のもので、この靈祭り折に祖先に供える供物を「お盆」に盛って供えたことから、のちに行事そのものの呼び名を「盆」といったのが日本の盆の始まりであった。

中国から渡ってきた仏教的「盆」は、正式には孟蘭盆会というもので、梁の大同4年(538)に武帝が同泰寺という寺で初めて行い、唐代に盛行したものが日本に渡ってきた。その時期は推古天皇の14年(606)だったといわれている。

孟蘭盆会の「会」というのは「集合する」という意味で、その前の孟蘭盆というは古代インドの国語(サンスクリット語)でいうウランバナに漢字を当てた言葉であり、ウランバナとは倒懸(逆さ吊り)のことである。

「孟蘭盆經」の中に釈迦の弟子で目蓮という高僧がいて、このお坊さんは神通力の優れた人であった。あるときその神通力であの世を見て

いると、自分の母親が餓鬼道に落とされて苦しんでいる姿が見え、どうすれば救えるかと、お釈迦さんに知恵を授かろうと相談したところ、旧暦7月15日に3ヶ月間苦しい修行を続けてきたお坊さんたちが修行を終えて集まってきたので、そのお坊さんたちにたくさんの飲食を提供すれば、母親はもちろん七世の父母が救われる教えられ、目蓮がそれを実践して、祖先をあの世の苦しみから救ったという説話がある。

このことが、日本的一般の仏教徒の間にも普及して、現在のような仏教的「盆」の起りとなったのである。

秋への歩み

日本の民謡に「盆は早う来て早よ戻る」というのがある。盆が過ぎるともう秋。農家では稲の収穫に備えて忙しい日々が続くようになる。

旧暦8月15日(現在の9月16日)は十五夜である。現在では仲秋の名月といって優雅な感性で捉えていたが、本来はそんな生やさしい行事ではなく、十三夜とともに稲の多収穫を、明るい月の光で訪れてくる田の神さまに供物を供えてお祈りする日であった。古くから農業の国、稻作の国として栄えてきた日本人にとって

この日の祈りは真剣そのものであった筈である。

こうして祈った稲がいよいよ収穫を迎えるのが旧10月10日(現在の11月23日)の「十日夜」。この日まで刈り入れを終えて、春のはじめ山から下って来て、この日まで長い間実りを見渡してくれた田の神さまを山へお送りする「田の神送り」の行事が「十日夜」である。農家ではその年穫れた初穂を田の神さまに供えて感謝の念を捧げ、新しく獲れた米で餅をついて親類・縁者に配り、収穫のよろこびを分かち合った。みんなが心を寄せ合って生きていた遠い日の祖先の心を、これらの行事を通して振り返ってみることが、現代人には大切な課題である。

世の中まさにデジタル社会の到来した感がある

文字や音 映像はもとより

三次元空間や人の感覚までもがデジタル(数値)化され

そして 色や形 重さや匂いのない電気信号だけが様々に融合し合う

不思議な気になるが やはり技術革新のカギを握っている

・どうしようかなデジタル衛星放送契約

・ホントに差別？ちびくろサンボ



×月×日

最近、特にテレビを見る機会が減った。時間が取れないこともあるが、睡眠時間は少なくて済むたちなので、興味をそそる番組が見つからなくなつたのが、その理由だろう。ずっとテレビ人間であったから、自分でも不思議なくらいだ。そんな気分に一寸異変が起きた。

わが家のテレビの処にはビデオディッキが3台、上にはケーブルTV用の黒い受信機がある。普段は妻と子供たちがチャンネルの主導権を巡って争っているのだが、そこに二つ目のデジタルCS放送用の機械を並べて、参加してみようかなと思案している。

このCS放送は、日テレ、TBSなどの地上波とは別に衛星を利用したテレビ放送である。既設の放送衛星を使ったBS(アナログ方式でNHKが2ch、WOWOW、ハイビジョン)放送とは別に、もう一つの通信衛星を利用した放送。アナログ方式によるスカイポートTV(9ch)とCSバーン(5ch)のほか、デジタル方式でパーエクTV(100ch)、ディレクTV(100ch)、JスカイB(150ch)、スカイD(20ch)がある。

デジタル方式では、音声や画像情報

が圧縮され、中継器に4ないし5チャンネルを受け持たせることが可能となる。つまり、送り手側にとってはコスト安となり、契約3万世帯でも事業として成り立つと言われている。だから、チャンネル数も自ずと増えていく。そして、そうした放送局の集合体が、例えばパーエクTVとなる訳だ。

スポーツや映画、趣味などの専門放送のほか、最近では予備校や官庁からの発信もあり、バラエティーに富んでいる。従来の地上波による放送では時間帯により区切られていた放送が、好みにより何時でも好きなときに見ることができ、まさに私にはピッタリ。その上、見る時にお金を払う「ペイ・パー・ビュー」や電話線を利用しての、双方向での楽しみも広がる。

×月×日

耳が痛いと泣き出した下の娘を連れて耳鼻科の病院へ行った。その待合所で娘が読んでくれと持て来た絵本を見てピックリ。何と、日本では絶版となつた「ちびくろサンボ」ではないか。

トラに身ぐるみを剥がされていくサン

ボ。それをうまく取り返し、逆にトラのバターで作った山ほどのホットケーキを食べる。子供にとっては、スリリングがありながらハッピーエンドとなる、ストーリーが面白いのか、繰り返し読まされた。

良くできた絵本なのに、何故これが黒人差別になるのか、理解できない。作品そのものの表現に差別的なところは感じない。だとすると、サンボという名前が黒人奴隸の代名詞というのか、トラが溶けて出来たバターを食べるのが非文明的というのか。それとも、ただ単に黒人が主人公になっていることから、背景として、黒人の暗い苦難の歴史を連想させるからというのか。

絶版騒ぎの時は、異民族、異文化に対する日本人の希薄な意識と、差別的问题であるとの議論があった。しかし、私が純感なのか、幾ら読んでもイメージすら湧かない。納得出来ないでいるところへ、指をケガした黒人の患者さんが入って来た。ドッキリ。娘にニコニコしながら話しかけて来た。3歳の娘は知識の中にも、勿論DNAの中にも、歴史的背景も何もないから、キヤツ、キヤツと。やっぱり解らない。

[文：新海 翼]